

一茶ゆかりの里四季の俳句会（平成二十八年一～三月分）

選者 高山俳壇 松本孝夫先生

特選 天そろいしや大小の顔松の内

群馬県 竹渕千恵子

日常は少人数の生活である元日より七日までは嫁ぎ先から来た子や孫達が寄り添い豪華爛漫に過ごせて楽しい。

特選 地朝靄に目醒む山湖の浮氷

群馬県 町田 宏

寒さが緩み、水温が上り、日差しも強まり小さな水滴が空中にただよい湖面の浮氷が次第に溶けて姿が薄れ水となる。

特選 人シャボン玉夕日の彩も入れて飛ぶ 愛知県 平野辰美

夕日を浴びて彩りが豊になり、命は短いが宙を優遊と飛ぶ。なんとなく生物に見えたりする。

入選 バス待つ子残雪けってゐたりけり 長野市 浦野スミ子

階の屋根より落つる雪の音 小布施町 池田紫艶

入選 冬枯れの林に透けて浅間見ゆ

群馬県 山口岩美

入選 猫外へ行くを断念する寒さ

群馬県 加藤幹生

入選 はだか木に実のなる如く寒雀

山梨県 柿沢英弘

入選 ストーブや猫と居場所を分かち合う 群馬県 竹渕洋子

入選 初詣り石段下で手を合す

群馬県 土屋はじめ